

# 木の言い分⑪

## ■ 木の声”と”木の霊”



その昔、「木の声が聞こえる」と仰って、日本各地の名木や貴重木を診断され、治療として木の幹にモルタル等を詰められた方がおられました。それ自体、当時の技術的な蓄積量から致し方のない状況だったと察します。そして氏は確かに「木の声」を聞かれ、精一杯の処置を施されていたのでしょう。しかしながら木にとっては「木の声」の奥底にある「樹の霊」を感じてほしかったのではないかと思います。もちろんここで言う「霊（たま）」とは、雨の下に巫（みこ）と書いて、雨乞いをする巫女の祈りのようなもの、もしくはその祈りに応えようとする森羅万象の意志のようなものです。この「木の霊」に対する祈りのようなものがあってこそ、樹齢何百年とされる樹を診断し、治療だとされる行為をおこなう資格が与えられると私は考えています。また最近の治療は、樹に対してかなりローインパクトになりましたが、未だに一部の方々による有機溶剤を用いての腐朽処置が試されているのは非常に残念なことです。現在の主流は樹木本来の治癒力に主眼を置いた処置方法です。樹木治療というまだまだ浅い技術的蓄積のなかで試行錯誤を繰り返しながら辿り着いた現時点での結論なのでしょう。



モルタル処置後の腐朽の進行が目立つ

私達にとって「木の声」を聞いたり「木の霊」を感じたりするのは、何も特別な経験や知識が必要なわけでもなく、変わった修行がいるものでもありません。なぜなら私達はもともと、みどり豊かな山河のなかで、森に擁（いだ）かれ、樹と共に暮らしてきた人々の子孫です。そのDNAには深き森の調べや樹の香りが浸み込んでいて、だれもが「木の声」を聞き「樹の霊」を感じることは可能なはずです。慌しすぎる日常の中、ふと公園のベンチに腰を下ろして、風に揺れる樹々の梢を眺めてみて下さい。遠い悠久の時を超えて、あなたのDNAに呼びかけてくるのは、きっと森の詩であり、樹の声です。ほら、聞こえませんか？

樹木医 川口 守  
川口樹木医事務所（枚方市）